

環境白書の刊行にあたって



富山県は、立山連峰や黒部峡谷などの世界的な山岳景観や曇気楼がみられる神秘の海富山湾、さらには本州一の植生自然度を誇る森林、名水百選に全国最多の8か所が選定されている清らかな水環境など、豊かな水と緑に恵まれています。私たちは、これらの素晴らしい環境を守り育て、県民の大切な財産として、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

現在、地球温暖化や生物多様性の損失をはじめとする地球的規模の問題から、廃棄物や自然の改変、大気・水・土壌の汚染などの身近な問題に至るまで、私たちは様々な環境問題に直面しています。また、東日本大震災以降、環境・エネルギー問題に対する関心が一層高まっており、ライフスタイルや事業活動のあり方を見直した安全・安心で持続可能な社会づくりが求められています。

幸い、富山県では、恵まれた自然環境や県民の皆様の環境問題に取り組む真摯な姿勢に支えられ、全国初となる県内全域でのレジ袋の無料配布廃止をはじめ、エコドライブなどのエコライフの推進、全国トップクラスの包蔵水力を活用した小水力発電の推進や住宅用太陽光発電の導入促進、「水と緑の森づくり税」を活用した里山林の再生など、県民総参加による幅広い取組みを進めています。

また、本年4月には森林などの水源地域における適正な土地利用の確保を図るため「水源地域保全条例」を制定するとともに、県西部の9河川について水生生物保全環境基準の水域類型を指定しており、本県の豊かで清らかな水資源の維持・保全に努めています。

さらに、今年10月からは、レジ袋の無料配布廃止に加え、資源回収や低炭素化などに取り組む小売店舗を登録する「とやまエコ・ストア制度」をスタートし、エコライフの一層の定着・拡大を図るほか、今年12月に本県で開催予定の北西太平洋地域海行動計画（NOWPAP）政府間会合に合わせ、日本海環境協力シンポジウムを開催するなど、国際環境協力にも積極的に取り組むこととしています。

今後とも、こうした本県の特徴を活かし、県民、民間団体、事業者、行政が一丸となって持続可能な地域づくりを推進し、環日本海地域の「環境・エネルギー先端県」の実現を目指します。

この環境白書は、平成24年度及び25年度における本県の環境の状況を紹介するとともに、環境の保全及び創造に向けた取組みについて取りまとめたものです。本書を通じて、多くの皆様に富山県の環境への理解と関心をさらに高めていただき、環境の保全と創造にご協力を賜りますようお願いいたします。

平成25年10月

富山県知事 石井 隆一